令和8年度第7回　太田市1％まちづくり会議　議事概要

会議の名称	令和8年度第7回1％まちづくり会議
開催日時	令和8年10月29日（木）　18:00～19:00
開催場所	太田市役所　5階　5A 会議室
出席委員 （代表氏名）	1％まちづくり会議　佐藤 広大 委員長　　他14名

1．開会

2．挨拶

佐藤委員長より挨拶

3．協議事項

（1）令和8年度8次募集審査について（申請2件　No.141（再提案）、No.142）

ヒアリング

No.141　竹明かり作成事業（竹林整備ボランティア団体金竹連）

団体：何度も計画を出してはみたが、なかなか伝わらず、皆様にご不便をおかけして大変申し訳ない。皆様の質問も答えていきたいのでよろしくお願いいたします。事業も今年で 3 年経過し、参加者も増えて、中身の整備ができていなかった。竹林整備で出た廃材を使って、ボランティアと協力しながら竹あかりの作成をしている。作成したものは大光院や尾島のイルミネーションに飾り、竹林整備事業も行っていることを知ってもらいながら、老若男女のコミュニティの場になればいいなと活動している。

委員：金山の竹の整備をしているのは素晴らしい。倒した竹全部を竹明かりで使えるのか。

団体：毎年何回かに分けて竹を整備している。2、30 本だけを切ってほぼ竹あかりに使っている。あとは昨年から、竹をチップにして農家の畑に撒いている。切った竹は全部使い切るようにしている。

委員：竹明かりを 500 円で販売するというのが非常に引っかかる。労力はボランティアで、道具は市からお金が出る。そこでいきなり 500 円となるのが理解できない。

団体：今まで竹林伐採や竹あかり展、竹あかりのワークショップで補助金をもらっている。その中で、ワークショップでお金を取るのは芳しくないという意見があったと聞いた。ボランティアでやっているので、儲けようという気持ちはなく、ワークショップも今はやっておらず、今は竹明かりの販売をしていない。市役所から、ワークショップでお金を取るなら収支報告に載せてとアドバイスがあった。今後、作成した竹明かりを欲しい方がいたときには 500 円で販売することを考えたい。

スターバックスやイオンで、何年か前にコラボをした。そこでお金を取っているのではと指摘もあったようだが、あくまでもスターバックスがお菓子代やコーヒー代のような形で取っていたようだが、金竹連としてお金はもらっていない。

他にも補助金で全部を賄うのではなく、自分たちでも資金を集められるようにワークショップをやった方がいいのではという話をもらった。どの意見を参考にしてどの意見を取り入れて良いかわからない現状。自分たちでは、ワークショップで資金を調達しようとは思っていなかった。

あくまでも金山竹林整備から始まった事業で、廃材になった竹がもったいないのでみんなで街に明かりを灯そうというプロジェクト。金山ガイダンスで文化財課と竹あかり展を開いたり、尾島のイルミネーションで竹明かりを展示したり、観光プロモーション課で、2 月に呑龍様をライトアップする計画があり、その中で竹あかりも一緒に展示する。地域団体と協力しながら進めている。

どういう形で参加者を集めているのかという質問もあったと聞いている。行政区単位等でやっていないので、SNS や、聴覚障害者のグループや尾島の社協などいろいろな団体と絡んでいる。あとは太田女子高校に学校の授業の一環として参加をしてもらっている。まちおこしや竹林の問題の把握、大人とコミュニケーションを取ることを目的としている。参加者が限定されていることや狭い範囲で、仲間内でやっているということではない。

事務局：団体には昨年度からいろいろお話をしている中で、ワークショップをやるなら、300 円とかお金を取って少しでも足しにしてという意見があったことを伝えた。それを受けて、500 円で販売すると書いてきたのだと思う。自分たちでも資金を集めて、足りない部分は 1%でということで書いてきたと理解している。

委員：事務局から補足説明があったので少し理解できたが、団体からの回答は説明になっていない。500 円という金額に対して答えがない。

委員：収支予算計画書で、地域からの寄付金や負担金がそれぞれ 0 になっている。500 円で販売するなら収入として計上するべき。今までの経験から、どのぐらい売り上げが想定されるのかを入れて欲しい。それから竹林整備で、2，30 本切っているということだが、どのくらい被害が減っているのか。

団体：竹も毎年生えてくる。竹あかり作成に使える竹は 3 年以上の竹。だからある程度大きくなっている竹を切る。私達がやれているのは全体の 10%とか 15%とかだと思う。ボランティアや参加している方は働いているので、微々たるところしかできていない。全部で何本かはわからないが、ものすごい数ある。

委員：チップにする話があったがチップは農政にチッパーがあるからそれを使って 1 年 2 年の若い竹も整備してもらいたい。

団体：それは竹林整備の方で考えたい。また、今後 500 円程度で販売することができるように本年度体制を考えていきたい。

事務局：先ほど団体のお話の中で、ワークショップをやるなと言われたり、逆にワークショップでお金を取れと言われたりという話があったが、昨年度からお伝えしているのは、ワークショップをやってはいけないということではなく、お金を取るならしっかり収支に入れてということ。事務局からワークショップをやってはいけないと話したことはない。

団体：本当はボランティアでお金を取らずやっていきたいが、そういうことも視野に入れて考えたい。
委員：これは市の竹なのか。
事務局：金山は市でなるべく買い進めている。私有地がどのぐらい残っているかはわからない。
団体：金山に多くの所有者がいると聞いているが、竹が伸びている上の権利は文化財課が管理しているので、上は許可を取って始めている。

団体退席

事務局：今年度、ワークショップは実施しないと聞いており、スケジュールの「竹あかり作成」は金竹連の役員と、日によって障害者グループの方や太女の方と一緒に竹明かりを作って、イルミネーションやライトアップ等のイベントに展示する。いろんな方に竹あかりの作成を手伝ってもらうというイメージが一番近いと思う。
委員：事業そのものはいい事業だと思う。ただ何となく釈然としない、何回も持ち帰りになっている原因は、1%事業に合うのかという点。1％事業とは、地域を活性化させる事業や地域コミュニティを醸成する事業、いわゆる地域という少し狭い舞台のことに関しての事業だと思う。今聞いていて、自分たちも「地域でやっている事業ではない」と言っている。ここまで 3 年間続けていて、以前から企業がコラボしてくれると言っているので、市から満額もらって満額使う事業で終わらせてほしくない。だから企業などに協賛をいただいて、参加者から 500 円などと小さなことを言わずに、もっと広く目を向けたらいいのでは。半分集まったけど半分は市でお願いしますというと 1%のイメージとあう気がする。今の段階では何とも言えないグレーな感じがした。
委員：いろんな行政区に出向いて、竹あかりを作って販売した方がいいと思う。1%でやらなくてもいい気がする。
委員：ボランティアと言わずに、NPO 法人を作ればいい。NPO 法人の認定をもらって、太田市から補助金をもらわずとも、自分たちで稼ぐ力はあると思う。女子高やスターバックスが協力してくれているとのこと。それだけの力やアイディアを持っているなら、この案件は 1 回取り下げて NPO 法人になった方がいい。

委員長から採決が諮られ、【不採択】と決定した。

No.142　ごみステーション整備事業（沖之郷町）
10 万円以下のため、事務局採択案件。質疑等はなし。

(2)採択基準について

委員長:机上に配布された資料で問題なければ、令和 9 年 4 月 1 日より運用を始めるがよろしいか。

委員:異議なし。

(3)その他

成果発表会について

委員長:当日の役割分担について決めたい。

立候補あり

委員長:当日の役割が決定したので、よろしくおねがいしたい。

挨拶:佐藤委員長

開会:笹木副委員長

司会:中村委員

閉会:鈴木委員　　に決定

4. 閉会